

## 令和3年度 園の自己評価

		評価 (1~5)
教 育 ・ 保 育	園児一人一人が安心感と信頼感をもって活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする	4
	→コロナ禍で制限はあるものの、できる範囲で多くの経験をし、安心感や信頼感をもって生活することができた。	
	主体的な活動を促す環境の工夫をする	4
	→室内活動をより充実させ、主体的な活動ができるよう環境をもう少し工夫する必要がある。	
	自発的な活動としての遊びを通して指導を行う	4
	→遊び(特に戸外)では、自発的な活動が展開されていた。	
	園児一人一人の特性や発達に応じた指導を行う	4
	→職員間でよく話し合い、特性に合わせた対応ができたが、発達をより理解していく必要がある。	
	活動によって保育所保育指針に示されている3つの資質・能力が育まれている	3
	→保育案では意識して立案はできたが、評価や反省が必要だった。	
保育所保育指針の幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、教育・保育にあたっている	4	
→特に教育の面についてはもう少し理解・意識が必要だった。		
健 康 支 援	保健計画に沿った保健活動を行う	3
	→保健計画の周知と、具体的な保健計画の把握が必要である。	
	園児の機嫌や食欲、顔色を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている	5
	→熱だけでなく様々な体調の変化に気を配ることができた。	
	体調不良や怪我が発生した場合、保護者に園児の状況を連絡し、適切な対応をとっている	5
	→連携を取り、迅速に対応することができた。	
	園児の成育歴や罹患歴、予防接種状況などの情報を把握している	4
	→情報は収集できているが、それに対して、具体的な行動はこちらからすることはなかった。	
	感染症に対して感染症情報を保護者に伝え、感染症予防に努めている	5
	→定期的に情報発信をすることで、保護者の感染症への意識も高まった。	
	感染症の疑いのある園児に対し、他児と接触しないようにするなど適切な処置、対応をしている	2
	→部屋数等都合上難しさを感じ、別室保育の対応はほとんどしてない、	
	睡眠チェックを年齢に合わせて必ず行い、SIDSの危険因子が無いようにしている	4
	→チェック表を用いて睡眠中の様子を適切に観察、記録した。	
AEDの使い方も含めた心肺蘇生法について職員全員が理解できるようにしている	4	
→研修を行った。緊急時に備え、繰り返し訓練できる機会を設けていく必要がある。		
食 育	食育計画に沿って園児が食への興味や関心を高めることができるような活動や関わりをしている	4
	→栄養士を中心に食育計画に合わせた活動を行うことができた。	
	安全、安心な給食やおやつを提供をしている	5
	→アレルギー要因の食材を排除した、安全、安心な給食・おやつを提供することができた。	
	旬の食材を使用したり、行事食を取り入れたりするなど季節を感じられるような献立作成をしている	4
	→栄養士が創意工夫をして旬の食材を取り入れた献立作成をしており、季節や行事を感じられた。	
	給食だよりにて情報発信をしている	5
	→給食だよりを発行し、給食に関する情報を発信していた。園の内容だけに限らず、食についてより幅広い情報を提供できるようにさらに工夫をしていきたい。	
	食物アレルギー対応を適切にしている	5
	→適切に行うことができた。	
離乳食は家庭と情報交換をし、一人ひとりに合わせた献立を作成し、提供している	3	
→食材チェック表や保護者との情報交換を基に一人ひとりに合わせた献立作成や形状での提供ができた。しかし、考え方に統一性がなかったため、話し合いが必要である。		

環境・衛生管理	室内の換気を適宜行い、室温、湿度や明るさ、音の大きさなど園児が心地よく過ごせる環境を整えている	4
	→湿度のコントロールが難しかった。換気は意識していたが定期的に行うことを徹底できていなかった。	
	嘔吐物、排泄物の処理に当たっては感染防止のための処理を徹底している	4
	→いつでも確認できるようにマニュアルや準備はしていた。定期的な実演演習があってもよかった。	
	衛生的な空間で園児が生活できるよう、丁寧な清掃を行っている	5
	→こまめな清掃を心掛け、衛生的な環境を整備できた。マットの下など、汚れがたまっているところにも気をつけていきたい。	
調乳や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒をするなど衛生面の配慮をしている	4	
→食事用のエプロン、使い捨ておしぼりの導入をした。取り扱いは気をつけ、衛生面に気をつけている。		
災害への備え	保育所保育指針、災害への備えに基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全点検を定期的に行っている	5
	→安全点検を定期的に行うことができた。	
	保育所保育指針、健康及び安全に基づき、緊急時の対応の具体的内容、手順、職員役割分担について確認をしている	4
	→確認はしたが、より周知できるとよい。	
	毎月1回、避難訓練及び消火器訓練を行い、反省をして改善点について検討している	3
	→毎月の避難訓練により、緊急時の対応について確認できている。反省や改善点などを周知できるようにしていく必要があった。	
	災害発生時の保護者への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう体制や手順を決め、引き渡し訓練で確認をしている	5
	→引き渡し訓練では保護者の方のご協力をいただき、手順や役割分担などを確認できた。よりスムーズな引き渡しができるように取り組んでいく。	
	防災備蓄を用意し、保存期間の確認、必要に応じた入れ替えを行っている	5
	→数量や期限を書いた紙を掲示し、定期的の確認を行い、入れ替えや必要物品の追加を行っている。	
園児の人数確認を定期的に行い、所在把握をしている	5	
→登園時、活動前、活動後、給食、午睡、など生活の節目の時間には必ず人数確認を行っている。特に戸外活動の時はこまめに行った。		
事故防止	玩具の安全点検を定期的に行っている	3
	→毎日の玩具消毒で点検も行った。危険なものは排除しているが、安全かどうかの検証は使用前に必ず行うようにしていく必要がある。	
	園外での活動に際して、事前に危険箇所を把握し、安全に活動できるようにしている	5
	→散歩マニュアルを作成し、周知している。	
	日常的な事故予防として、ヒヤリハットを収集、分析し、事故予防対策に活用している	5
	→毎月事故後の分析、毎日のミーティング等で全職員への周知を行い、予防対策に活用できた。	
	不審者の対応など危機管理について職員で周知している	3
	→研修は行ったが、実践できる機会があるとよい。	
睡眠、水遊び、食事等の重大事故が発生しやすい場面について、マニュアルに基づきその場面に応じた適切な対応を行っている	4	
→マニュアルはあるが、各クラスによって対応が違う場面があり、正しくできていないこともあった。対応について再度見直し、マニュアルの内容が周知徹底できるようにした。事故の起こりやすい場面では、いつ事故が起こるかわからないので、引き続き事故予防に努める。		
子育ての支援	保護者が積極的に半日保育体験に参加していただけるよう文書や掲示等で促している	2
	→コロナのため実施せず。動画配信で園の様子を発信することができた。	
	保護者からの相談に対してはプライバシーの保護や守秘義務を守り、親身に耳を傾ける態度で対応する	5
	→プライバシーの保護や、守秘義務に努めたが、保育士の対応で、保護者を不快にさせた指摘があった。	
	状況に応じて内部の体制をとったり、外部機関との連携をとり、適切な家庭支援を行う	5
	→園長を中心に適切な対応をした。	
地域における子育て家庭の保護者等に対する支援を適切に実施している（育児相談・園庭開放・子育て情報誌）	1	
→育児相談ができることをわかりやすく、掲示することを検討してもよい。		
資質職員の向上	内部研修を計画的に行い、職員が共通認識の下で教育・保育にあたることができるようにする	3
	→内部研修は行っているが、日々の実践に結び付くことができなかった。	
	キャリアアップを含む様々な内容の外部研修に参加できるよう職員体制を整え、資質向上に努める	4
	→コロナ禍のため、オンライン中心に参加した。	